

コウノトリが死亡しました

野外繁殖により増えた足環なし個体（2009年生れ、オス）が、11月30日に豊岡市森津地区内で標識調査作業中に、捕獲のために使用した餌の誤嚥により窒息死しました。この個体は、平成21年5月11日に豊岡市出石町伊豆地区人工巣塔で生まれた個体です。今後、このようなことがないように対策を講じていきます。

もう1羽J0411（2006年東京都多摩動物公園生れ、オス）の死亡が、12月11日に石川県鳳珠郡能登町で確認されました。この個体は、平成24年5月29日にコウノトリの郷公園が東京都多摩動物公園より譲受し、同年9月27日豊岡市出石町袴狭地区でハードリリースした個体です。死亡原因は、衰弱死と思われます。対策を検討中です。

鶴見カフェのお知らせ

1月20日、2月17日、3月17日に実施します！

郷公園の研究員等とコウノトリについて気軽に話しあう鶴見カフェを、毎月第3日曜日の午後4時から豊岡市中央町のサンストークアベニュー内「なごみ茶屋」で行っています。（飲物・ケーキ代500円程度が必要です。詳しくは当公園のホームページ内お知らせ欄をご覧ください。）

平成24年度 定例観察会「ガイドウォーク」のご案内

1月19日、2月16日、3月16日に実施します！

毎月第3土曜日の午後1時30分から、ガイドウォークを行っています。園内を歩きながら、生き物にやさしい施設の工夫や環境（コウノトリ育む農法）などの案内、園内の生き物観察、コウノトリの話等をしていきます。午後1時15分から正門前の掲示板横で受付けています。歩きやすい服装でお越しください。

コウノトリの個体数 (H24.12.31現在)

1 飼育コウノトリの個体数

区分	オス	メス	計
県立コウノトリの郷公園	25	32	57
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	17	12	29
養父市八鹿町伊佐地区放鳥拠点	1	1	2
朝来市山東町三保地区放鳥拠点	1	1	2
計	44	46	90

2 野外にいるコウノトリの個体数

区分	オス	メス	不明	計
放鳥コウノトリ	7	10		17
野外繁殖により増えたコウノトリ	12	26	4	42
野生個体		1		1
計	19	37	4	60

コウノトリ通信に関するご質問・ご意見等がありましたら下記までEメール又は電話等でご連絡ください。

問い合わせ先
兵庫県立コウノトリの郷公園
〒668-0814 豊岡市祥雲寺字二ヶ谷128番地
TEL: 0796-23-5666
FAX: 0796-23-6538

E-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
ホームページ : http://www.stork.u-hyogo.ac.jp
開園時間 : 9:00~17:00
休園日 : 毎週月曜日(休日に当たるときはその翌日)・12月28日~1月4日

コウノトリ通信

(題字：山岸哲園長)



兵庫県立コウノトリの郷公園
平成25(2013)年1月1日発行

No.5

コウノトリとサギ

兵庫県立コウノトリの郷公園 田園生態研究部 獣医師 三橋陽子

コウノトリが田んぼにいる風景が普通になりつつある豊岡でも、コウノトリの体がどうなっているかまでは見れませんよね？今回はそんなお話を、同じような場所で生きるサギと比較しながらしてみたいと思います。



写真1



写真2

○コウノトリは本当に採餌が下手？

コウノトリは、採餌でよくサギと比較されます。サギはねらいを定めて魚を突き刺すように捕りますが（写真1・2）、コウノトリはひたすら水の中に嘴を突っ込んだり、横に振ったりして探すので（写真3）「採餌が下手」だという不名誉な評価をされています。しかし、「サギとは体のつくりが違うから、しょうがないじゃないか」とコウノトリは言いたいかもしれません。アオサギを例にレントゲンで比較してみましょう。



写真3

サギの首は素早く動かすことができますが、それは首の骨の一つが長く（写真4・5）、首を前方へ伸ばす筋肉の力が、効果的に伝わるからだそうです。カクカクと折れ曲がって短くなった首が、一気にシュッと伸びる様子は、どこかのお笑い芸人がヤス（手鉦）で魚を捕っている様子と似ていませんか？

一方、コウノトリの首の骨は、サギよりは短く（写真6）緩やかにS字状を描くだけです。これではサギのように捕れ！と言っても無理でしょう。

他にもサギは「待ち伏せ」や「足探り」、「人や他の動物の行動を利用する」など色々な方法を使って採餌することができます。つまり、コウノトリが下手ではなくて、サギが特に上手なのです！

でも大丈夫。コウノトリにも得意科目はちゃんとあります。実は鳥類の多くは嘴に神経が通っていて感覚を持っており、コウノトリはそれを利用して泥の中や濁った水の中でも、獲物を捕ることができるのです。（このように嘴の感覚を利用して採餌行動する鳥として、他にはシギの仲間、トキの仲間などが知られています）



写真4



写真5

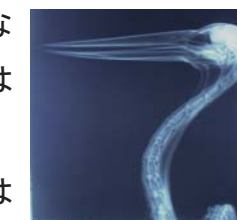


写真6

視覚に頼るように進化したサギ、触覚を選んだコウノトリと言ったところでしょうが、これを象徴したシーンを目撃したことがあります。それは2002年の12月30日、野生個体（通称ハチゴロウ）を観察していた時でした。園内で野生個体が、草の残る湿地で小魚を器用に探し出して食べている様子を興味深く見ていたのですが、その脇にアオサギがぴったりとついて回っていました(写真7)。サギがトラクター等の後ろに集まっている様子を見た方は多いと思いますが、それは機械の接近で逃げ出したり、土の中から掘り返された虫を狙っているからです。このアオサギはコウノトリをそれに見立てて、歩き回るコウノトリによってあぶり出された魚を狙っていたのでした。2種類の鳥の採餌方法の違いが面白くて、印象に残っています。



写真7 野生個体とアオサギ

○コウノトリは人工物がお好き?～足指(趾)の違い～
コウノトリが電柱などの人工物にとまっている姿を、よく見かけると思います。

「あ～あ、やっぱり人工飼育していたから～」と当初言われていたものですが、これにもコウノトリの言い分がある

かもしれません。

「松に鶴はコウノトリの事。何故ならタンチョウ(ツル)は木にとまれないから」って、よく聞きますか? しかし、実はコウノトリも木に「とまる」事は出来ても、細い木の枝だと苦手なようです。実際、時々翼をばたつかせてバランスをとりながら細い枝にとまっている様子を、野外で観察することがあります。何故なのでしょう?

実はコウノトリの足の指は、「掴む」力、つまり握力が弱いようなのです。治療で足を持っていても、指の握力はあまり感じません。これがサギだと、油断すると服や腕を強い力で掴んでくるので、困るくらいです。

だからコウノトリは、接地面が広いがっしりとした枝や人工物の上の方が、足を乗せるだけで安定して立つ事ができるので、とても都合が良かったと考えられます。何かにとまっている時の足指をよく観察すると、「ぎゅっと掴む」ことをしていないのが、よく判ります。

それに対し、サギは「ぎゅっと掴む」事が出来るので、電線など細い線でも安定してとまっています。このことで、サギはさらに採餌可能な場所を、広げることにもなります。

また、サギは鳥類の多くがそうであるように鋭い「かぎ爪」をしていますが(写真8)、コウノトリは人間と同じような「ひら爪」をしています(写真9)。こういう爪であることは意外と知られていないので、是非コウノトリを見るときは、この特徴を確認してみてください!

(サギの首のしくみに関して、鳥の博物館HP、鳥便りHPを参考にしました)



写真8 アオサギの足指



写真9 人間っぽくて色っぽいコウノトリの足指

遠出しているコウノトリ情報

(平成24年11-12月に確認した飛来場所)

- J0006 (2008年生れ、メス) 岡山県倉敷市
- J0009 (2008年生れ、メス) 愛媛県西予市
- J0016 (2009年生れ、メス) 愛媛県西予市、福井県若狭町
- J0022 (2010年生れ、メス) 鹿児島県南さつま市
- J0023 (2010年生れ、メス) 大阪府和泉市、大阪府岸和田市、大阪府堺市
- J0048 (2012年生れ、オス) 山口県下関市、愛媛県松山市、香川県善通寺市、香川県丸亀市
- J0057 (2012年生れ、オス) 和歌山県和歌山市
- J0411 (2006年生れ、オス) 石川県鳳珠郡能登町
- 足環なし個体 兵庫県加古川市
- 足環なし個体 大阪府岸和田市

*京丹後方面の情報は、記載していません。



J0048 写真提供
香川県丸亀市
安部氏(12月21日撮影)



J0057 写真提供
和歌山県和歌山市
小杉氏(12月24日撮影)



郷公園で確認したいきもの(11月1日~12月31日)

[貝類] カワナ マジミ マルタニシ	[両生類] トノサマガエル ニホンアカガエル ニホンアマガエル	トビ ハシホソガラス ヒヨドリ ホオジロ ヤマガラ	ツルアリオシ(実) トキワセ ノジキク ヒメジョオン ベニバナホロキク ヤノネグサ
[クモ類] コガネグモ ゴミグモ ジョウグモ	[鳥類] アオサギ アオジ エナガ カワウ カワセミ クサシギ コウノトリ(野生) コガモ コケラ ジョウビタキ スズメ セグロセキレイ ダイサギ ツグミ	[哺乳類] ニホンイノシ(ぬた場、土耕跡) ニホンジカ ニホンテン(足跡)	《木本》 ウメトキ(実) カキノキ(実) ガマズミ(実) コマユミ(実) サザンカ ソコ(実) ナンテン(実)
[甲殻類] アメリカザリガニ スジエビ ミナミヌマエビ	[魚類] メダカ	[菌類] ナメコ	[植物/主に 開花中のもの] 《草本》 コウヤボウキ ススキ セイヨウタンポポ



ノジギク(園芸)



ナメコ



ガマズミ(実)



ウスタビガ